

MonthlyLetter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



COC+開講授業紹介 ～集中講義「ふくいを知る・見る・考える」でのセーレン(株)の見学～

9月13日から16日まで、大学連携センター(Fスクエア)で、集中講義「ふくいを知る・見る・考える」が行われました。この講義では、学生が福井の自然、環境、歴史、産業などを知るとともに、地域が抱える諸問題や課題に対して関心を持ち、地域をフィールドとして自ら学び、地域社会のさまざまな人との積極的な触れ合いなども通して普段の大学のキャンパスでは学べないことを地域と協働して主体的に学ぶ場としています。

13日には現場に触れることをテーマに、セーレン株式会社の研究開発センターを見学しました。映像を用いた会社概要のお話の後、社員の方から製造工程や製品の説明がありました。

学生たちは、会社見学によって大きな刺激を受けて、「福井に誇りを持った」「多くの発見、感動、驚いた」「こんな素晴らしい企業を知らずに、他県へ就職、進学するのはもったいないと思った」などと感想を述べていました。



学生必読

シリーズ「ふくい地域創生士」

来年3月の「ふくい地域創生士」第1期生の認定誕生に向けての申請受付を行っています(一部の大学では、申請受付が終了しています)。「ふるさとへの想い」と「就職活動へのインセンティブ」へのトライを待っています。

1～2年生の皆さんで、「ふくい地域創生士」認定に興味を持った方は、HP
(<http://www.allfukui-cocp.jp/sousei/>)をチェックしてください。



【コーディネーターからのちょっこしお願い】

地域についての勉強がなぜ必要なのか? →地域を知り、福井を好きになってほしいからです。福井は自然や歴史が素晴らしく、世界に誇れる企業がたくさんあります。みなさんに広く知ってもらい、誇りに思ってもらいたいです。学生のうちにたくさんの人の話を聞き、情報を自ら取りに行ってください。そのことが皆さんのふるさとへの想いにも通ずると確信しています。



舟木コーディネーター

考福塾でCOC+のプロジェクト活動を発表

10月21日に福井駅東口のアオッサで福井新聞社が主催する「考福塾」が開催されました。今回の考福塾では、特色人材育成部会で活動する4つのワーキンググループから学生11名(福井大学、福井工業大学)と各活動を指導する福井大学(医学部:清水誉子講師、産学官連携本部:竹本拓治准教授)、福井工業大学(工学部:羽木秀樹教授、環境情報学部:玉野哲也講師)から5名の教員が参加しました。



グループ討議の様子

最初に、「COC+事業の紹介と今後の展開」と題してCOC+事業責任者である福井大学の岩井善郎理事・副学長からの当事業に関する説明の後、福井大学大学院工学研究科の野嶋慎二教授が「地域創生における学生プロジェクトの意義と取組」と題して講演しました。

その後、学生が「ふくいブランド創出プロジェクト」「まちづくり分野プロジェクト」「看護福祉分野プロジェクト」の活動発表を行い、発表後、プロジェクトごとに塾生(県内の企業や団体で働く若い方)が加わり、グループ討議を行いました。活発な意見交換が行われ、学生たちは、塾生や考福塾の塾長である伊藤忠商事会長の小林栄三氏(福井県出身)から有意義なアドバイスをもらうことができました。



発表の様子

福井型新採用学研究会 ～ふくいの仕事の魅力を伝えるには～

福井大学地域創生教育研究センターでは、福井県の協力を得て、「福井型新採用学研究会」の活動を平成29年度から3カ年の計画で推進しています。今年度は、5回の研究会と3回のワークショップを実施し、延べ約250人の企業の採用担当者や経営者が参加しました。

有効求人倍率全国トップクラス、福井大学の就職率10年連続1位、社長輩出率35年間全国1位、47都道府県幸福度ランキングナンバー1、小中学生の学力全国トップクラス、女性の就業率全国1位、勤労者世帯の実収入全国1位(2位が東京)…なのに、県内企業は深刻な人手不足、新卒学生の採用難、内定辞退に怯える採用担当者、という現実をどう埋めていくかが課題となっています。

7月にはふくいCOC+事業推進協議会主催で「採用学」のシンポジウムを実施。それがきっかけになり、採用学の研究がスタート。「学生に福井の魅力が伝わっていない」「学生やその両親に、福井の企業の素晴らしさが伝わっていない」といった仮説を立てて、活発な議論が交わされました。

採用学で有名な横浜国立大学の服部泰宏准教授には採用の革新を、同志社女子大学の上田信行特任教授には魅力を表現する指導をお願いし、学生に伝わる企業の魅力の表現を考えました。

来年2月18日に予定している研究会の報告会では、その成果を見てもらいたいと思っています。また、次年度は、大学教職員、学生、学生の両親等巻き込んだ研究活動にしていきたいと思っています。



研究会の様子



ワークショップの様子

編集後記

せんだって、大阪でロボット・クリエイターの方の話を聞きました。その中で、今までは「ニーズ(用途)」が商品開発に繋がっているが、これからは「遊び」が開発心を促し、それが、用途開発・商品に繋がっていく時代だと話していました。改めて、発想の転換はそこまで来ていると思い、新しい年に向けて、その気持ちを大切にしてCOC+事業に取り組みたいです。(舟木)

